

【愛】 されて8年 有終の美を飾る

7月11日 さよなら常設展ギャラリートーク



展示が終了する豊科郷土博物館の常設展「MATSURI」のギャラリートークが開かれ、19人が参加しました。展示を監修した元跡見学園女子大学教授の倉石あつ子さんが、安曇野の人々が行ってた年中行事や祝い事、地域に根付いた祭りの魅力を紹介し、8年間同館を支え多くの人に愛された展示への思いを語りました。富山県から訪れた廣田雄介さん(33)は「道祖神祭りなど、この地ならではの祭りを知れて興味深かった」と話していました。新たな常設展は9月19日から公開される予定です。

【大】 好評 地元産の魅力を味わう

6月20・21日 安曇野玉ねぎ祭り



安曇野玉ねぎ祭りが14会場で開かれ、市内外から新玉ねぎを求めて多くの人が訪れました。天候が心配されていましたが、初日の午前中に完売となる会場もあり、にぎわいを見せていました。

堀金の小田多井農村夢倶楽部の会場で収穫体験をした丸山美和さん(松本市)は「子どもと収穫体験ができるのは貴重な機会なので毎年楽しみ。子どもたちは玉ねぎが好きなので、たくさん収穫したい」と話し、ネットいっぱいに旬の玉ねぎを収穫していました。

【飛】 び交う蜘蛛の糸に息をのむ

6月16・17日 穂高西小と穂高西中で能楽教室



観世流能楽師の青木道喜さんによる能楽教室が、16日に穂高西小学校、17日に穂高西中学校で開かれました。下掛宝生流能楽師の小林努さんのほか、青木さんが指導する立命館大学の青木真由人さんら学生たちで「土蜘蛛」を上演。土蜘蛛役が蜘蛛の糸に見立てた紙テープを投げる場面では、生徒たちは息をのむように見入っていました。穂高西小6年2組の野口陽菜さん(11)は「一人一人が役になりきって迫力があつた。いろいろな装束や小道具もあって、とても面白かった」と話していました。

【自】 然環境をゲーム感覚で学ぶ

6月11日 グリーンアドベンチャー



学校周辺のビオトープを巡りながら、自然環境への理解を深めるグリーンアドベンチャーが豊科南小学校で行われました。児童たちは、自然の中に散りばめられたクイズをグループで協力して解きながら、交流を深めていました。

企画運営を行った6年4組の岩下璃子さん(11)は「2週間前からこの日のために準備をしてきた。みんなの楽しんでいる姿を見れてうれしかった」と話していました。

【梅】 雨空に咲く 多彩なステージとハナショウブ

6月20・21日 安曇野明科あやめまつり

見頃を迎えた公園いっぱいのハナショウブと地域の絆を深めるイベントがあやめ公園と龍門淵公園で開かれました。初日は、あいにくの雨降りとなったものの、金管バンドや和太鼓など地元を中心に活動するグループが迫力あるステージ発表を披露。会場では、ニジマスのつかみ取りやラフティング体験、特産品の販売なども行われ、訪れた人は約60種類・3万株のハナショウブを楽しみながら思い思いの時間を過ごしていました。

明南小学校と合同で演奏した明北小学校金管バンド部の内川咲さん(12)と一之瀬灯里さん(12)は「緊張したけれど、昨年よりレベルアップした演奏ができた」と笑顔を見せていました。

**【ス】** マート農業を体験 カモのように動かすのは難しいかも

6月16日 アイガモロボットのプログラミング体験

堀金小学校の5年生が、株式会社あづみのうか浅川(代表 浅川拓郎さん)が管理する田んぼでアイガモロボットのプログラミングに挑戦しました。ロボットは合鴨農法からヒントを得て、水田の雑草を抑えるために開発された自動抑草ロボット。当日は、体育館でプログラミングの操作方を学んだ後、ロボットを田んぼに浮かべて実際に動かしました。児童たちはロボットが思うように進まず苦戦しながらも、進む向きを変えるプログラムを自分たちで考え、ロボットが長く動くように工夫していました。大曾根さらまさん(10)と浅田純さん(11)は「ロボットを田んぼで動かすのは大変だったけど、工夫すると思い通りに動くところが楽しかった」と振り返りました。

